

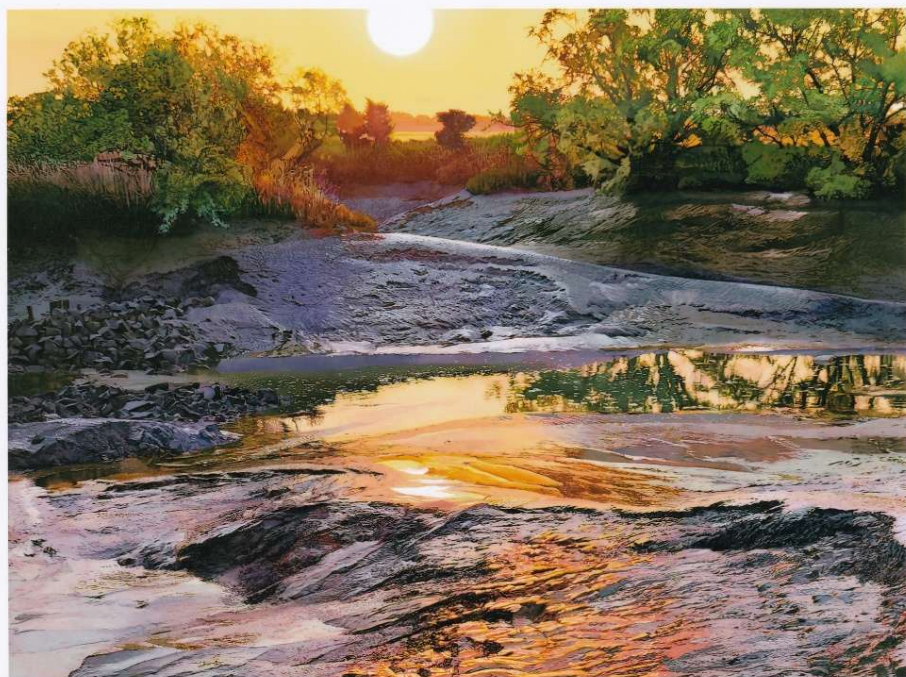
傳習館



東京同窓会会報

第26号

2026.1.1



第92回独立展(2025)

朝日

池末満



- ・ 東京同窓会総会を振り返って
- ・ 修学旅行生との交流を実施
- ・ 清水山と船小屋
- ・ 白秋祭水上パレード 市民おもてなしに感謝
都内で『立花宗茂』の歴史と文化講座を開催
- ・ 趣味のボタニカル写真でカレンダー作り
- ・ 天国と地獄の病室
- ・ 柳川音楽めぐり
- ・ 人生は、偶然が意味を持って繋がったもの？
- ・ 同窓生だより
- ・ 未来を語る高校生のために
- ・ 俳句集「柳川んボレロ」から



会報への投稿待ってます



高校時代といま、懐かしい風景
短いエピソードでも大歓迎です

第26号 2026.1.1

表紙絵 高21 池末 満「朝日」

第92回 独立展出展作、200号。朝日が差し込み、河畔を黄金色に染め上げる。筑後平野の早春の情景。

東京同窓会本部だより

- ・ 26号目次1
- ・ 令和8年年頭の挨拶 会長・白谷政則 東京同窓会親睦会の告知2
- ・ 学年幹事会活動報告, 東京同窓会決算報告3
- ・ 東京同窓会学年幹事名簿、伝習館高進路状況、会則4
- ・ 賛助金ご協力状況報告5
- ・ 賛助金通信欄コメント6
- ・ 東京同窓会総会を振り返って 高34 真鍋和裕7
- ・ 講話&企業訪問を通じて伝習館生とのふれあい
～修学旅行生との交流を実施～ 高41 古賀貴統8

同窓会会員寄稿・先輩後輩より

- ・ 伝習館ズンドコ～柳川慕情～ 高4 渡邊喜亮11
- ・ 清水山と船小屋 高4 荒井健之輔12
- ・ 白秋祭水上パレード 市民おもてなしに感謝 高5 下河秀行14
都内で『立花宗茂』の歴史と文化講座を開催
- ・ 趣味のボタニカル写真でカレンダー作り 高11 龍 勝16
- ・ 天国と地獄の病室 高18 福山博彰18
- ・ 柳川音楽めぐり 高42 弥永邦夫19
- ・ 人生は、偶然が意味を持って繋がったもの? 高45 中島淑雄20
- ・ 同窓生だより 高45 西田真紀子22
- ・ 未来を語る高校生のために 高41 下河敏彦23
- ・ 俳句集「柳川んボレロ」から 高2 斜庵・小野善睦24
- ◆告知広告 末永通子さん 古布のタペストリーと小物展25
- ◆賛助金の振り込み方法・編集後記26
- ◆大同窓会開かる・綿貫画伯イタリア絵画展 ゴルフ同好会コンペの報告
.....27

伝習館



東京同窓会
会報





東京同窓会本部より【令和8年度 年頭挨拶】

伝習館東京同窓会会長 白谷政則

同窓生の皆様明けましておめでとうございます。いつも東京同窓会にご協力いただきありがとうございます。昨年は伝習館東京同窓会の総会を開催し大勢の皆さんと楽しい時間を過ごさせて頂きました。今年も親睦会(総会ではありません)を予定していますので、又お会いしましょう。

東京同窓会の改革についてお知らせします。まず、役員の新返り、学年幹事・常任幹事の充実を図るため会則を改訂し、副会長5名以内、常任幹事10名以内とし、役員は80歳定年と致しました。これに伴い原田副会長と栢島副会長のお二人が退任となりました。原田さんは20世紀の終わり(1998年)頃から事務局兼務で東京同窓会をリードされ、総会や修学旅行生との交流会等東京同窓会の行事ではいつも三稜マークの饅頭(千鳥屋製)をご提供いただきました。今では当たり前ですが男女共同参画社会の見本のように、東京同窓会でも女性の学年幹事や常任幹事の登用が続いています。

栢島さんは上場企業の社長/会長という経歴から東京同窓会も江崎前会長から栢島さんへバトンを渡すのが本来の姿なのですが、東京同窓会をより活性化するにはトップも若いほうがいいと後輩の私にお鉢が回った経緯があります。若い人達が同窓会に気楽に参加できるようゴルフ愛好会や若手交流会の立ち上げ等しっかりと下支えしていただきました。お二人には心より感謝申し上げます。お二人の後任を打診しても誰も引き受けてくれません。数年前から学年幹事会で討議を重ね、会則を改訂し副会長を5名以内とすることにより、一木亮之介(高32)、山田公德(高33)、真鍋和裕(高34)、志牟田美佐(高37)を選任しました。皆さん60歳前後で仕事も現役ですが、積極的に同窓会の運営に参加されています。常任幹事も同窓会の役目毎に随時選任する予定です。

次に会報の改革について 昨年発行の25号から冊子(紙体)は大幅に減らしております。過去3年間、東京同窓会にご協力いただき尚且つ希望者のみ冊子を郵送しました。会報は東京同窓会のHPから閲覧できるので冊子がなくても見ることは出来ます。発行部数を減らしたので賛助金が少なくなるのではないかと心配しましたが例年通りの入金があり安堵しております。収入は例年通り、支出は大幅に減り昨年度はようやく黒字になりましたので、今後もしばらくはこの方法で冊子発行の予定です。

修学旅行生との交流会を11月5日(水)夜 講演会、6日(木)昼間 企業訪問と実施しました。この交流会は生徒達には貴重な経験であり、東京同窓会にとって5年後10年後を見通す明るい材料の一つであります。組織の新返り、会報の刷新、交流会の復活…このまま続けば東京同窓会の将来(10年位)は大丈夫と思っています。もちろん皆様の賛助金のご協力あってのことですが…。

終わりにこの会報を楽しみに待っておられる皆様の健康と平和で穏やかな一年を祈っております。

令和8年5月23日(土)、東京同窓会親睦会を開催

総会と1年おきに開催している東京同窓会の親睦会を5月23日、JR田町駅そばのアリス・アクアガーデン田町で予定しております。特に行事めいたものではなく、飲食しながら気軽に歓談、交流してもらおうというものです。参加申し込みなど詳細は各学年幹事より、また伝習館高校東京同窓会ウェブサイトでもお知らせします。

- ◆とき＝令和8年5月23日(土曜)12時30分受付開始 13～15時開催
- ◆ところ＝アリス・アクアガーデン田町
(田町センタービル・ピアタ3階 JR田町駅徒歩1分)
- ◆会費＝6000円(飲み放題)を予定



※会場はJR田町の三田口(西口)を出て同じフロアの左手のビル、ピアタの3階へ。案内係もいるので、迷う心配はありません。

【東京同窓会 学年幹事会活動報告】

伝習館関係

- ・ R 6. 10月～11月 会報25号最終調整
(編集委員)
12月 会報25号発行
- ・ R 7. 2/15(土) 学年幹事会 田町
名簿整理(逝去・返却・辞退・その他)
12月 賛助入金状況確認
R 7 総会準備進捗状況
役員の改選と会則改訂
- ・ R 7. 4/16(土) 学年幹事会 田町
総会準備 最終確認
来年以降の総会/親睦会について
会則改訂(案) 最終確認
総会実行委員は会場(池袋)へ何度も足を運び動線の確認をしています
- ・ R 7. 5/24(土)
11:00 池袋サンシャイン
『クルーズクルーズ』
伝習館東京同窓会総会開催

- ・ R 7. 8/2(土) 学年幹事会 田町
R 7 総会 会計報告/総括
来年の親睦会について
修学旅行生との交流会について
会報26号について
- ・ R 7. 10/26(土) 学年幹事会 田町
名簿整理 会報26号(冊子)送付先確認
修学旅行生との交流会
(R 7, 11/5講演 11/6企業訪問)
R 8 東京同窓会親睦会 5/23で決定



県人会関連

- ・ 同窓会協力委員会
毎月1回 定例会議
年1回 役員交流会
(3/30 4名参加)
年1回 就活を応援する会
年4回 ビジネスセミナー
興味ある方は学年幹事を通して
事務局へご連絡ください

柳川市関連

- ・ 柳川フェア
- ・ R6 11/21～11/23
於・丸の内KITTE

東京同窓会HPと学年幹事の
LINEグループで皆さんへお知らせしました

【東京同窓会決算報告】

決算報告 (2024/11/1～2025/10/31)

収入	銀行	281,000	賛助金	44件(総会時現金受付含む)
	:	1,551	受取利息	
	:	256,546	総会余剰金	
	:	50,000	予約金戻入れ(総会会場費 ムーンエレファント)	
	ゆうちょ	669,000	賛助金	115件
当期収入		1,258,097		
支出	会報発行	298,980	会報25号印刷費 朝日メディア	
	:	70,880	: 送料 (送料+シール)	
	電子版	1,878	R6 11月	
学年幹事会		1,776	コピー代(学年幹事会4回)	
広告費		40,000	伝習館大同窓会(柳川)広告費	
県人会		32,000	同窓会役員実務者交流会(4名)	
事務費			切手・レターパック等	
:		440	銀行振込手数料	
:		1,430	郵便振替用紙送料	
手数料		19,736	郵貯振替口座手数料	
:		9,515	郵便振替通知手数料	
印字サービス料			郵貯振替用紙印字サービス料	
当期支出		476,635		
当期損益		781,462		
前期繰越		1,302,278	銀行	1,967,107
当期損益		781,462	ゆうちょ	97,491
次期繰越		2,083,740	現金	19,142
				2,083,740

2025総会 特別会計(2025/5/24)

収入	祝儀	40,000	井上館長 立花洋介副会長
		1,740,000	参加費 @10,000×174名
	合計	1,780,000	
支出	郵送料	26,970	案内状郵送(80歳以上)
	会場費	1,443,040	飲食、室料、機材レンタル、控室
	演奏お礼	50,000	
	その他	3,444	名札シール他
	合計	1,523,454	
収支		256,546	一般会計へ繰り入れ
賛助金		161,000	28名 一般会計へ繰り入れ

学年幹事名簿（令和8年1月）

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
第02期	江崎正直【名誉会長】	第19期	田中茂利	第33期	山田公徳【副会長】	第40期	石橋美和
第10期	内山秀生		芹川季代子		山田佐登子【常任幹事】		千釜洋子
	永倉（跡部）素子	第20期	高巢和登		真鍋和裕【副会長】		藤田昌弘
第11期	長尾弘行		白谷政則【会長】	第34期	大隈光一郎	第41期	古賀貴統【常任幹事】
第12期	小野アケミ	第21期	北島正常【編集長】		大津志保		下河敏彦【副編集長】
	野上一治		西原正道【常任幹事】	第35期	池上英次		鶴由希子
第13期	原田（立花）万紗子	第23期	高田健二【常任幹事】		山田江里子		松嶋英明
	尾田義昭		樋口（田上）貴美子		大野（山田）美佐子		丸岡さち代
第14期	高木（堤）節子	第24期	酒見和平		土井啓郁	第42期	弥永邦夫
第15期	後藤民子	第25期	稗田克彦	第36期	指田（藤木）初代		河口 美和
第16期	枕島正司	第27期	高橋圭介【常任幹事】		猿渡（渡邊）由季子	第44期	清原 万和
	水澤（田中）昭子	第28期	松藤峯成	第37期	志牟田美佐【副会長】		荒巻 和伸
第17期	浦川邦憲	第30期	吉開孝人		桑山 薫	第45期	中島淑雄
	福山雅文		持木浩徳	第38期	金子千恵美		平松千万人
第18期	満生英二	第32期	甲斐田幸輝【常任幹事】	第39期	高橋徹		
	吉田シヅカ		一木亮之介【副会長】		井口武彦		
			大笹健一【常任幹事】	第40期	山田雅彦【常任幹事】		

※80歳以上の方は事務局より連絡しますが、80～85歳の方は出来る範囲でご協力をお願いします。
なお修学旅行生との交流会を機に今後、若い方の登録をお願いします。

進路状況（令和7年4月）

国公立大学合格者			私立大学合格者		
京都大学	2	佐賀大学	35	早稲田大学	1
大阪大学	1	熊本大学	16	明治大学	3
九州大学	15	長崎大学	6	法政大学	3
名古屋大学	1	大分大学	2	自治医科大学医学部	1
神戸大学	2	宮崎大学	1	青山学院大学	1
東京外国語大学	1	鹿児島大学	4	中央大学	4
埼玉大学	1	横浜市立大学	1	玉川大学	1
信州大学	1	下関市立大学	1	東京理科大学	1
広島大学	1	福岡女子大学	1	順天堂大学	1
山口大学	3	九州歯科大学歯学部歯学科	2	國學院大學	1
愛媛大学	1	長崎県立大学	4	北里大学	1
九州工業大学	2	熊本県立大学	2	帝京大学	1
福岡教育大学	2	など	109名	東海大学	3
				同志社大学	7
				立命館大学	22
				京都女子大学	5
				同志社女子大学	2
				関西大学	2
				関西学院大学	4
				近畿大学	7
				摂南大学	5
				神戸薬科大学	1
				甲南大学	2
				岡山理科大学	5
				広島工業大学	3
				九州産業大学	30
				福岡大学	114
				西南学院大学	45
				中村学園大学	15
				福岡工業大学	19
				久留米大学	39
				国際医療福祉大学	11
				崇城大学	18
				立命館アジア太平洋大学	4
				など	432名
				準大学校	
				防衛大学校	3
				防衛医科大学校 看護	1

伝習館東京同窓会会則 令和7年5月24日改訂

- (名称) 一 本会は伝習館東京同窓会と言います。
- (目的) 二 本会は会員相互の親睦と融和を図ると共に母校の発展に資することを目的とします。
- (所在地) 三 本会の所在地は次の場所に置きます。〒230-0073 神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷1丁目9番1号 白谷 方
- (事業) 四 本会はその目的を達するため以下の事業を行います。
- 1 総会の開催 2 同窓会誌の発行 3 母校事業の後援等 4 その他本会の目的達成に適切な事業
- (会員) 五 本会は福岡県立伝習館高等学校、中学伝習館、柳河高等女学校、高等学校伝習館（含む併置中学校）、柳河女子高等学校（含む併置中学校）卒業生並びに一時在籍した者を以て会員とします。
- (会計) 六 本会の会計は会員の会費、寄附金品等を以て運営し、毎年一回、学年幹事会においてその収支を監査します。
- (役員) 七 本会には以下の役員を置きます。
- 1 会長1名 2 副会長 5名以内 3 常任幹事 10名以内 4 学年幹事 各学年若干名 5 会計 2名
- (役員の選任等) 八 会長は学年幹事会の推薦により総会で決定し、副会長並びに常任幹事及び会計は学年幹事会で、学年幹事は各卒業年度の会員の互選により選任します。
- (役員の任期) 九 役員の任期は4年として、その再任を妨げません。但し80歳をもって定年とし、学年幹事は任意に定年延長できるものとします。
- (総会) 十 総会は2年に1回開催します。会長は総会において会計を報告します。
- (付則) 十一 本会則は総会の決議により改訂出来るものとし、本会に必要な細則は幹事会で別途定めます。

【賛助金ご協力状況報告】

令和6年11月1日～令和7年10月31日

10月末日を〆日としました。氏名は←左から順

回生	氏名
協賛50口	
-	匿名
協賛25口	
21	白谷 政則
協賛15口	
6	戸上 軍治
協賛10口	
10	内山 秀生
14	高木 節子
協賛7.5口	
13	尾田 義昭
協賛5口	
中48	宮本 弘道
2	平河 智
4	小野 硯一郎
6	川口 健寿郎
8	永倉 正彦
9	福山 幹子
11	樋口 守
12	野上 一治
12	東 若芳
16	栂島 正司
16	三小田 雅美
17	跡部 與志
17	福山 雅文
18	森田 啓吾
19	野口 昇
20	大城 美紀緒
20	岡 賢二
21	北島 正常
21	坂井 友実
23	末永 龍介
24	青木 俊哉
24	酒見 和平
27	友清 寛
32	一木 亮之介
32	加藤 寛樹
32	濱武 久司
33	山田 公德
33	横山(北島)栄作
0	匿名
0	匿名
協賛3口	
8	入部 一郎
8	大村 泰生
18	江口 吉光
18	福山 博彰
協賛2.5口	
4	荒井 健之輔
5	江口 政司
5	緒方 豊昌
5	下河 秀行
6	福山 恭輔
10	永倉 素子
10	松藤 俊正

回生	氏名
協賛2.5口	
12	小野 アケミ
12	滝口 晴夫
12	野片 義人
12	横山 正和
13	進藤 達実
14	鶴 保子
16	荒巻 明美
17	浦川 邦憲
18	岩崎 和子
18	川口 苦楽
18	十時 理展
18	平野 勇
18	松藤 由朗
18	満生 英二
19	田中 茂利
19	福山 啓治
20	田淵 正
20	東 寛治
20	藤丸 昭徳
20	吉開 廣道
21	石橋 一晃
21	田中 正司
21	中島 和彦
21	西原 正道
22	竜 美代子
23	大淵 義久
23	高田 健二
23	浜 幸助
23	武藤友次 由樹子
26	野口 佳延
27	高橋 圭介
27	藤木 雄二
28	吉開 孝人
31	荒木 亮治
32	合原 嘉男
33	梅崎 茂光
33	山田 佐登子
35	石橋 栄市
35	古賀 ゆかり
37	江崎 浩輔
41	古賀 貴統
協賛2口	
2	増田 勝彦
10	古賀 雄次郎
24	松藤 理恵子
24	山田 直美
29	古賀 宣明
30	橋爪 政男
41	下河 敏彦
協賛1.5口	
5	安藤 祥介
7	石橋 一徳
8	池田 孝人
11	佐藤 輝代子

回生	氏名
協賛1.5口	
11	龍 勝
12	尾田 常昭
15	星隈 保夫
16	金子 修
16	松延 日出美
16	水澤 昭子
17	山本 祥子
23	樋口 貴美子
24	竹内 幸代
32	甲斐田 幸輝
33	井上 賢二
41	下川 豊弘
協賛1口	
2	石橋 慶孝
3	臼井 ヒロエ
3	宮崎 八代子
5	原 たか子
6	石橋 修
6	菊次 伸子
6	森 清旨
8	甲斐田義春
10	高島 早苗
11	木下 淑子
11	田北 昌久
11	原尻 満子
12	甲木 宏明
12	城戸 ケイ子
12	深谷 悦子
17	中島 功
18	古賀 行夫
19	正岡 喜則
19	森田 達雄
20	海東 信子
20	近藤 敬介
20	諸藤 由美子
21	柿野 貴美子
21	境 とき江
21	千代島道生
21	藤木 由美子
23	志岐 光穂
23	下田 真知子
24	田中 知子
24	分部 三枝子
28	越智 浄観
32	咲村 あかね
41	松嶋 英明
42	弥永 邦夫
49	金見 美佳
49	金納 由恵
協賛0.5口	
17	北野 すえ子
20	井口 ちづ子
30	井上 由紀

伝習館高校東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高3 宮崎 八代子

年々同期のお友達が少なくなり、淋しくなっています。高校、短大の後輩、鳥取三津子さん（日本航空社長）のご活躍が楽しみで、同窓会誌に癒やされています。（旧姓津村、倉敷市在）

高4 渡邊 喜亮

伝統ある伝習館であれば、せめて高校草創期のこと（活気ある雰囲気）は知ってほしいと「新制伝習館高校事はじめ」を書いてきましたが、老頭児（ロートル）の出番はこれで終わりです。会報25号は、初めて編集関係者だけで作り上げたようですが、素晴らしい出来でした。北島編集長以下、皆さんの創意工夫のお蔭、横書きで見やすくなりました。東京には歴史と個性のある大学がひしめいています。今後は澁刺と学生生活を送ったもって若い世代の投稿が欲しいですね。老・壮・青のバランスのとれた東京同窓会を期待します。

日本航空の社長に伝習館卒の鳥取三津子さんが就任…は高校始まって以来の快挙で素晴らしい。ぜひインタビューを、そして皆で東京同窓会名誉会長に推挙しよう。

高6 菊次 伸子

会報誌、今回はもうないと思っていました。例年通りただで嬉しかったです。表紙の写真、裏オモテとも色鮮やかで素晴らしい！

高8 入部 一郎

来年の桜が見られるようにリハビリを頑張ってます。

高16 柊島 正司

高4 渡邊先輩の寄稿に半世紀前の思い出が甦りました。驚いたのは朝日新聞柳川通信局・秋吉記者のこと。鎌倉育ち葉山在住の友人の父親がその人です。友人が3歳頃の話でしょう。伝えれば喜びます。渡邊さん、ありがとうございます。

高6 戸上 軍治

新年に相応しい新制伝習館東京同窓会25号会報誌の記念すべき編集に感謝申し上げます。ありがとうございます。

高2 増田 勝彦

令和6年の5月9日、一般道で転倒、右股関節を骨折。92歳で初めての長期入院（6カ月超）を経験。いまだに外出禁止の状態です。

高18 平野 勇

会報25号有り難うございました。楽しく懐かしく読みました。賛助金送ります。

高14 高木 節子

5月の東京同窓会総会は、14回生の同期会と日程が近く、同期生が少ない中の参加となりましたが、一木さんら、後輩の皆さんのご協力で楽しく過ごせ、感謝です。なお、9月の大同窓会（御花会場）にも参加、立花民雄同窓会会長ほか、寛茂顧問、原田万紗子様ら立花家の人々ともお会いでき、良いひと時を過ごさせてもらいました。



高6 森 清旨

会報ありがとうございます。荒井先輩の「柳川の夏の思い出」は大変懐かしく拝読致しました。これからも諸氏のご健勝を祈ります。

高24 松藤 理恵子

会報いつもありがとうございます。

先輩方の記事に叔父の中村信人（伝習館高国語科教諭）の名前を見つけ、とても嬉しかったです。荒井先輩のカタカナ詩、最高！イタリア旅行記も拝読したいです。

高10 内山 秀生

前回忘れたけん、2回分送ります。未だ何とか生きとります。

高19 福山 啓治

毎年年末に会報が届き、新年の宝物を見るように楽しんでいます。役員の皆様、有り難うございます。

高20 大城 美紀緒

毎回会報を楽しく読んでいます。同窓生がJALの社長とは嬉しい驚きです。

高5 下河 秀行

毎年、同総会誌の編集・発行ご苦労さまです。会報はこれまでの縦書きから横書きになったので少し違和感を感じたのは私だけではないかと。出来たら二段組みの方が読み易いと思います。

高18 松藤 由朗

会報を読んでいると身も心も柳川にいる気になり、柳川弁が出てきそうです。懐かしく、嬉しく思います。

高17 浦川 邦憲

元気なうちはと週2回働いています。

高19 福山 啓治

毎年年末に会報が届き、新年の宝物を見るように楽しんでいます。役員の皆様有り難うございます。

高20 田淵正

東京同窓会会長白谷さん他ご苦労様です。毎年の会報楽しみにしております。

高20 藤丸 昭徳

会報の電子版移行に関して、会長始め編集に携わる方々のご苦労お察し致します。ご苦労様です。

高33 山田 公徳

6月から2年ほど大阪に単身赴任しております。

高35 石橋 栄市

東京同窓会の運営、お世話になります。今後ともよろしくお願い致します。

高23 下田 真知子

「柳川んボレロ」時々柳川弁、面白く読ませていただきました。鳥取三津子さんのJAL社長就任は素晴らしいですね。

高41 下河 敏彦

会報が新しい仲間を増やす橋渡しになればいいと思います。

高49 金見 美佳

5月の東京同窓会ではお世話になりました。皆様にお会いできて嬉しかったです。

高21 西原&北島

我々21回生は敬老会ならぬ、同期懇親会（誕生月祝い含む）を毎月のように開催しております。今回の同期生・池末画伯の独立展鑑賞もその一つ、10年ほど続きます。11月の柳川の同期会にも関東からこぞって参加、皆いたって元気です。



東京同窓会総会を振り返って

高校37回生真鍋和裕さん

去る5月24日（土）、伝習館東京同窓会総会・懇親会を2年ぶりに開催致しました。会場予約は1年～半年前というので、私、真鍋和裕が実行委員長を拝命以降、会場を見て回り、学年幹事会に図ってサンシャイン60を決定しました。

会場は池袋・サンシャイン60の「クルーズ・クルーズ」。地上58階にある素晴らしい眺めの会場でした。参加者は180人を上回る大勢の卒業生の皆さんにお集まりいただきました。

第一部の総会では、白谷政則会長、立花洋介同窓会副会長（立花民雄同窓会会長の代理）、井上淳郎館長からの挨拶。活動報告等の議事が進められ、今回会則の変更として、役員の80歳定年および副会長増員（現行2名から5名へ）の承認も得られました。

総会に続いて、わが伝習館を代表する声楽家の金見美佳さん（高49回）のソプラノミニコンサートを開催。大先輩・北原白秋先生の歌を中心に素敵な歌声を披露。演奏の最後には柳川の内田さん作成の動画に合わせ皆で恒例の「帰去来」合唱となり、ふる里柳川を偲びました。

第二部の懇親会は34回生の渡邊聖子さんの司会で進行。乾杯ののちオードブルと飲み物を楽しみながら、学年・先輩後輩の枠を超え和やかに交流が広がり、時間が過ぎることさえ忘れるほどの賑わいとなりました。

最後には井上館長も登壇され、校歌（星座よ輝けこの柳川＝北原白秋）、旧校歌（伝えて習う古の）、準校歌（白雲なびく雲仙の）を全員で唱和し、名残りを惜しみながらの閉会となりました。地元からは第75回大同窓会実行委員の皆さんも参加。同実行委員長の元村快枝さん（47回生）が挨拶、大同窓会の更なる成功に向け、ご協力のお願がありました。会場を回った協賛金袋には多額の寄付が寄せられ、さすが東京同窓会と感心されたとか。実行委に成り代わり、改めて御礼申し上げます。

開催にさかのぼること1年前、準備会を発足。学年幹事会での検討を重ね現地確認を経ての会場準備から始まり、東京同窓会総会を無事執り行うことができましたことは、実行委員会としてこの上ない喜びです。

ご尽力下さった白谷政則会長、一木亮之介先輩（32回）、山田公德先輩（33回）ほか先輩方々、同期の大津さん、荒巻さん、大隈さんをはじめ34回の皆さんには改めて感謝申し上げます（真鍋和裕記）。



「こんな高所から講話したことがない」と井上館長



主にご年輩の方々の席



大同窓会実行委の元村快枝さんが協力呼びかけ



金見美佳さんによる「白秋メドレー」に心和む



盛大な拍手で無事終了



「柳川の大同窓会をよろしくう」（47回生の実行委）

講話&企業訪問を通じて伝習館生とのふれあい ～修学旅行生との交流を実施～

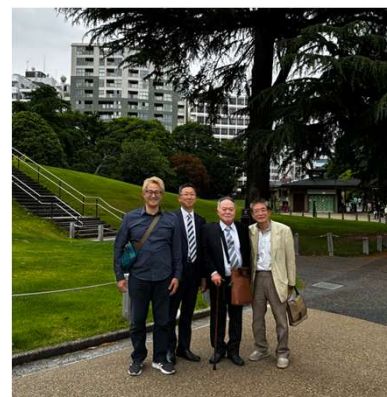
高校41回生 古賀貴統さん

始まりは5月の東京同窓会総会後の新宿御苑

東京同窓会では、日頃から伝習館生との交流を深めたいという思いがありました。

5月24日の東京同窓会総会に井上館長が柳川から来賓として総会に出席された際、「東京同窓会として何かできることはありませんか？」と直談判しました。総会后、白谷会長、満生先輩が新宿御苑に行く予定があったので、そこに合流させて頂き、いろいろな話をすることができました。生徒の将来のために何が必要か、東京にいる卒業生として何かできることはないか、等々。伝習館と東京同窓会で価値観を共有できた、有意義な時間だったと思います。

そこで館長から「一緒に何かやりましょう、まずは修学旅行から」と提案して頂いた時から、今回の活動が始まりました。



(新宿御苑にて)

企業訪問・交流会の依頼と準備

東京同窓会総会の直後、早速2年生の学年主任である大庭先生から連絡がありました。

「11月に修学旅行があるので、11/5夜の講話か交流会、および11/6の企業訪問の受け入れ先を探して欲しい」。これまでも交流会はありましたが、今回は継続を前提とした伝習館から東京同窓会への正式な依頼だったので、みんな気合が入りました。

11/5の夜については東京同窓会で交流会か講話かで議論を重ね、37回生の志牟田先輩と41回生の私の講話、11/6の企業訪問についてはLINEを使って東京同窓会の幹事会に声をかけたところ、11名の同窓生が手を挙げてくれました。

みんな多忙な業務の中、会社と調整してくれた人たちばかりです。

大庭先生や各企業との調整をする中で、各担当者からは柳川、伝習館、そして後輩達に何かをしてあげたいという気持ちがものすごい熱量で伝わってきて、嬉しくなると共にこれは成功するに間違いないという確信がありました。

卒業生 年度	氏名	企業名
1 37回生	志牟田美佐	東京慈恵会医科大学 神経科学研究部
2 41回生	松嶋英明	三井金属
3 41回生	古賀貴統	Siemens Gamesa Renewable Energy
4 42回生	弥永邦夫	キッコーマン
5 42回生	河口美和	QVCジャパン
6 45回生	中島淑雄	株式会社グロービス グロービス経営大学院
7 45回生	浦裕美	株式会社IMAGICA GROUP
8 45回生	角博之	SMBC日興証券
9 45回生	吉澤明子	日立システムズ
10 45回生	西山奈々子	横河電機株式会社
11 46回生	中村多一	富士通Japan株式会社

伝習館生との交流 ～11/5夜の講話～

11/5夜の講話では、先に志牟田先輩が学術的な研究を面白くアレンジして話をされたのでプレッシャーがかかりましたが、僭越ながら私の経験を基に話をさせて頂きました。

タイトルは”天職(転職?)のススメ”。変なタイトルですが、高校時代の過ごし方から、大学、大学院、転職3回を経て4社目に勤務する過程で経験したことが何かの参考になることを願って話をしました。夕食後の眠たい時間帯でも生徒たちは真剣な眼差しで聞いてくれていましたが、自分では後半少しダラダラした話し方だったと反省してます。後日、生徒達から感想をもらった時には、伝えたいことが伝わっていたようで、貴重な経験をさせてもらって良かったと思いました。

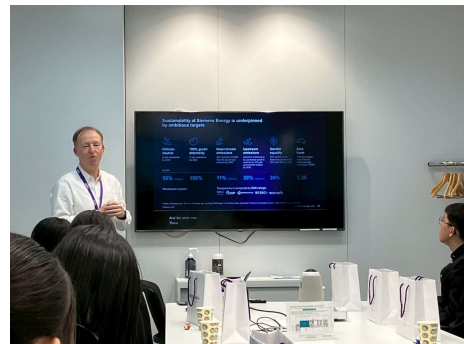


11/6の企業訪問

講話が終わった次の日、午後から企業訪問でした。私の会社はシーメンスガメサ・リニューアブルエナジーというドイツ系の会社で港区の汐留にあり、校長先生、白井先生と9名の生徒が訪問してくれました。会社の裏に国の特別名勝に指定された江戸時代から続く大名庭園、浜離宮庭園があるので、まずはみんなでお弁当を買って一緒にお昼ご飯を食べました。都会の高層ビルの中にある自然豊かな庭園で、天気も良く生徒達もアイスを買ったりして、リラックスして楽しんでいました。

お弁当の後は、漸く弊社への企業訪問。はじめにラッセル社長のオープニングスピーチの後、青木営業部長から、再生可能エネルギーの重要性、その中の風力発電の位置付け、世界で風車を作れる会社は3社のみであり、弊社は世界No. 1のシェア、日本でも昨年2位、今年シェアがNo. 1になることの説明がありました。生徒たちは興味深く聞いていて、特に巨大な風車の建設工事の動画は食いつくように見ていました。

その後、アジアパシフィックの技術統括部長であるYang Min氏とオンラインで繋いで、英語で風車の構造を説明してもらいました。Yang氏は女性ながらも重役の一人として活躍し、そのYang氏と気軽に話ができる風通しの良い会社の雰囲気、感銘を受けた生徒たちも多かったようです。弊社への訪問をきっかけに日ごろ使っている電気や再生可能エネルギーに関して考えるきっかけになってくれれば、良いと思っています。



今回の講話や企業訪問に際して、初めは生徒たちに何かを伝えたいと思って始めた活動ですが、生徒たちと一緒に過ごす中で、些細なことに興味をもったり感動する気持ちや、一生懸命人の話を聞いて何かを勉強しようという姿勢など、大人になっていろんなことを経験すればするほど忘れてしまうような、大切なことを思い出させてくれたと、逆に勉強させられてエネルギーをもらった気分です。今後もこの交流を継続して、お互いに刺激を与えあう関係を続けたいと切に願いました。





きらめく時間はプライスレス



東京の空の下



スクリーンに映るのは、
時間では抱えきれないもの



ものづくり、味づくり、思い出作り



令和の大航海時代



科学と青春の最先端



その笑顔ひとつひとつが、
時の希少元素



好奇心は世界を超える



思い出という名の資産



chapter I'll never forget

柳川伝習館ズンドコ ～柳川慕情～

高校4回生 渡邊喜亮さん

海軍小唄 ズンドコ節に乗せて、または、おさななじみ(デュークエイセス)に模して歌う

1, 想いはるかな 柳川に

こうげがらす
高麗鴉の 鳴き往けば

汲ン場に赤い 日は落ちて

岸边に残る こもりがき 木森柿

<トコズンドコ ズンドコ>

2, 老木^{おいぎ}の柳 みどりなす

欄干橋の 少女たち

水門くぐる カップパたち

ドロツクドンは 遠くなり

<トコズンドコ ズンドコ>

柳のかげの 少女たち

欄干橋の カップパたち

水門くぐる ドンコ舟

ドロツクドンは 遠くなり

3, 殿のお蔵の 白壁に

水天宮の 舟舞台

クツゾコ、メカジャに ムツゴロウ

せいろむ
蒸籠蒸しがなつかしい

<トコズンドコ ズンドコ>

4, 空の浮雲 眺めては

水道タンクが 目に浮かぶ

呼んでみたとて 届かない

伝習館の 声がする

<トコズンドコ ズンドコ>



清水山と船小屋

高校4回生 荒井健之輔さん

柳川に住んでいた若い頃、ちょっと出かける近場のレクリエーションの場所といえば「清水山」か「船小屋」くらいであった。

1) 「清水山」

幼かった頃「へそくり山」の上から遠望した「清水山」は国民学校6年生になると春の遠足先の決まりだった。片道約12キロ（3里）の結構な距離をぞろぞろと列をなして歩いていくのだ。当時、自動車の往来はさほど多くはなかったので、歩いていくのが当たり前だった。今なら危険でとんでもないことだろう。

柳川を出て三橋を通過して瀬高に入る。矢部川に架かる瀬高橋を渡り瀬高駅を左手に見ながら鹿児島本線の踏切を渡るとやがて道は三叉路になり、南の山川や南関に向う道と東に真っ直ぐ「清水山」に向かう道に分かれる。我々は「清水山」を正面に見ながら進む。山麓の本吉からはい

よいよ山登りである。ここからは山門や石段のある急登の旧道とくねりながら緩やかに上る新道があるが、行きは新道を上がる。竹の子の出る竹林の中の道を上って行く、やがて三重の塔の横を通り観音堂の前に出る。ここで旧道と一緒に。一応観音様にお参りをしてから三重の塔の方に戻り、その先の展望の開けた辺りで解散・弁当ということになる。遥か彼方に有明海が見渡せ、さらにその先左手に雲仙岳、ずっと右に目をやれば多良岳、西北に天山、北には背振が遠望できる。もっとも子供の頃は雲仙岳くらいしか関心はなかったのだが。眼下には筑後平野が広がり、蓮華畑や菜の花畑がパッチワークのようで美しい眺めだった。山の斜面には桜の木も多く、名残の桜や八重桜が咲いていた。弁当を食べ終わると皆で山の斜面を駆け回って遊んだ。帰りは観音堂の横から石段を下りる旧道をとる。石段の下に

は山門があつて石ころ混じりの山道を下ると右手に五百羅漢がある。山を下りて瀬高の街を通る頃に便意（大）を催してきた。瀬高橋を渡る頃にはどうにも我慢できなくなって、近くの石橋さんの家に駆け込んだ。お宅は矢部川の少し上流の土手の下（今の山門高校の東側あたり）にあった。

石橋さんは中国山東省の青島にいた頃の父の知人で、その年（昭和21年）1月に引揚げた後、父に一度連れて来られたことがあって家を覚えていたのであった。これが幸いした。用便を済ませてスッキリとして遠足の列に追いついた。

石橋さんの青島のお宅には何度か伺った。我々子供たちだけでも遊びに行った。子供のなかった石橋さんは我々兄弟を歓迎して可愛がってくださった。奥さんは餃子が得意でよく作ってもらった。ご主人は大陸浪人の雰囲気です。日本刀やピストルを何

丁か持っておられて見せてもらい、恐る恐るピストルを触ったことだった。



伝習館3年の秋、運動会も終わって気晴らしにと、中村信人と木原繁幸と「古曾都越（こそづごえ）」のハイキングに出かけた。まず清水山の旧道を上がり観音堂に向かう。観音堂の東側の山側に登山道がある。山道の途中に湧き水の流れる溪流があつてそこで飯盒炊飯をやった。おかずはトビウオの干物やふりかけ、それに梅干しに漬物程度だが、緑に包まれて青空の下で食べる飯はこの上なく美味しかった。飯の後、尾根

筋まで上がり「船小屋」目指して尾根を歩いた。アップダウンを繰り返しながら歩く途中で笹栗が実をつけて笹が口を開けているのが目に留まった。3人で栗拾いじゃなくて栗採りをやった。結構沢山採れた。家に帰って茹でて食べたら美味しかった。

大学の1年の終わり春休みに、伝習館の同じクラスから九大に進んだ小野硯一郎君たち6人でサイクリングに出かけた。瀬高を過ぎて「清水山」を正面に見ながら右手の南関方面に道をとる。坂を上がって清水山と御牧山の鞍部への細い道には入っていった。このあたりは山の斜面にみかん畑が広がっている。我々は山道を自転車を下りて押して登っていった。峠の辺りは竹の子山だった。そこで弁当を食べた。峠の先は下り道で自転車のブレーキを踏みながらゆっくりと行く。竹の子の缶詰工場があつて竹の子の皮がうずたかく積み上げてあつた。山道を出ると広い道に出る。このあたりは清水山の東側で八女郡の白木谷だった。そこから「船小屋」目指して自転車を走らせた。概ね下りで快適なドライブだ



った。矢部川の土手の桜の下で一休みして柳川に帰ってきた。

大学の終わり3月末、就職を前にして帰省した。任地の大阪に行く前に、弟たちと名残の「清水山」に行こうと出かけた。皆自転車でいった。丁度桜が満開で眼下に蓮華畑や菜の花畑が広がり、有明海の向こうに遠く雲仙岳が霞んで見えて美しい眺めだった。名残の景色は今でも脳裏に刻まれている。

25年程前になろうか、経営の任にあたっていたF社の退任を決めたころ、九州の代理店会が「船小屋」の「樋口軒」で催された。私の後任に決めているK氏と福岡から車で出



かけた。少し早く着いたので、清水山に行ってみることにした。三重の塔辺りに車を停めて観音堂に詣った。そのあと見晴らしのよいところで眼下に広がる筑後平野や有明海・雲仙岳を遠望して車に戻ったら、男性3人連れに出会った。その中の一人を見て驚いた。伝習館で同級だった柴田暢之君で、早大を出て安川電機に勤めていたが、辞めて父親の後を継いで三橋の郵便局長をやっているときいていた。その日は久しぶりに「清水山」に行こうと近所の仲間とやって来たのだとか、偶然の再会を喜びあった。彼も随分前に故人となった。

また20年程前にならうか、柳川で伝習館の同期会をやった翌日に、有

志20数名で「清水山」行きをした。同期の山崎清利君の経営する柳城観光のバスで出かけた。新道を少しあがったところでバスを降りて歩いて上った。前日に2次会までよく飲んでいたので、尾根の展望台に着いた頃にはよたよたフラフラだった。しかし筑後平野南西部の展望が開けていて、疲れを癒してくれた。尾根筋にはドライブウェイができていて車でも来られるようになっていて、時の流れを感じた。

「清水山」は柳川からは少し離れているが、山のない柳川の人たちにとっては「故郷（ふるさと）の山」なのである。標高330m程のいわゆる低山であるが、「清水寺」の古刹や歴史を感じさせる旧道もあり、県南のハイキングの名所として人気があるらしい。

2) 「船小屋」

「船小屋」も忘れ難い思い出の地である。小学生の頃に行った記憶があるが遠足で行ったのか、何で行ったのかは覚えていない。「船小屋の水に砂糖ば入れたらサイダーになる

げな」と砂糖を持っていったことがあった。サイダーには程遠い味だった。「船小屋の水」とは鉱泉（炭酸水）のことである。旅館の「樋口軒」の少し上流（東側）に飲泉場が設えてあって、コップを持っていけば誰でも自由に飲むことができた。飲泉場の横からは中之島の河原に渡る小さな木の橋が架かっていた。



「船小屋」は清流矢部川の中流に位地している。鉱泉を泉源とする温泉地で温泉旅館が沢山あり、中でも「樋口軒」が最も大きくて立派で有名である。また春は桜が、夏には夜空を彩る源氏ボタルで名高い。中之島には大きな楠の樹林が広がっていて、県南の憩いの場、保養地でもある。

我々が中学生の頃には、この中之島の国道から西側の少し離れた森の中にグラウンドがあって、野球の試合をしたことがあった。南筑の何かの大会だったと思う。相手は水田中学だった。当時水田中には桜井という好投手がいて難敵だった。またその日は日曜日で、偶然柳城中学の女生徒グループが遊びに来ていて応援に入ってくれた。女生徒グループの応援に我々は大いに意気が上がり試合に勝ったと思う。試合の後我々は柳川まで歩いて帰った。船小屋から矢部川の土手を、朝鮮松原から支流の沖端川の土手を歩いたのであった。

伝習館の頃には泳ぎに行った。3年の夏休みに中村と木原と、3人で気晴らしに出かけた。（「柳川の夏の思い出」に既述）

大学の1年の終わり春休みの桜満開の頃、当時親しく付き合っていたY子が東京から帰省したのを機に、「船小屋」までサイクリングに出かけた。柳川の街を走っていると国道橋の手前、旭町の旧水産堂のあたりで向こうから自転車で行って来る母にパツパツ出会った。母もこちらに気がついて自転車を降りて「どこさ

ん行きよるとね」と訊いてきた。

「船小屋まで」と答えると「あんたの自転車は古かけん、これに乗っていかんね」と自転車を取り替えてくれた。そしてY子の方を見てニコッと会釈をした。「用心して行ってこんね」と言って去っていった。母親公認の心ときめくデートとなって、ペダルも軽くなって自転車を走らせた。瀬高橋の手前で左に曲がり矢部川の土手の上を上流に向かって走る。橋を渡り朝鮮松原を過ぎて「船小屋」に着いた。春爛漫桜が満開だった。夏の水泳場あたりがボート漕ぎ場になっていて桜の下でボートを漕いだ。心が弾んだ。その年には夏にもY子と船小屋に出かけた。古い自転車で行った。泳ぎはしなかったがボート漕ぎなどして、帰りに瀬高の街を通るルートをとった。瀬高の手前の鹿児島本線の跨線橋を上る時ペダルを強く踏んだらポキッと折れてしまった。仕方なく自転車を押して坂を上って、柳川まで片方のペダルだけで苦労して帰ってきた。暑い夏で汗びっしょりだったが、そんなことは吹っ飛ばすような嬉しく楽しいサイクリングだった。

最後に「船小屋」を訪れたのは、先の「清水山」の項でも触れたが、25年程前に当時勤務した会社の九州の代理店会を「樋口軒」で催した時である。「船小屋」には度々行ったが泊るのは初めてであった。矢部川の土手の高い所に建っている宿の部屋から中之島の楠の林を眺め、眼下に流れる矢部川の清流を見て、遠く清水の山並みを望み、温泉に身を浸した。

「船小屋」には九州新幹線の駅が出来たが、賑わうようになったであろうか。いつまでも自然豊かなホテル舞う清流の地であって欲しい。

柳川は矢部川と沖端川の三角州に位地していて、「矢部川」は柳川人の「母なる川」ではなかろうか。そして「ふるさとの川」ではなかろうか。そして「ふるさとの山」は「清水山」なのである。懐かしい、忘れられない。

「白秋祭水上パレード」

(第一部)

去る11月1日～3日までの今回の柳川行きは、伝習館高校第5回卒『米寿』記念同期会以来2年余の帰郷でした。

柳川市観光協会主催・柳川市後援の第73回【白秋祭水上パレード】に、家族3人で参加してきました。



▲開会式で松永市長が挨拶

【白秋祭】は、丁度12年前に私が【柳川観光大使の就任式】の時、東京から10名の観光ツアーを組んで参加した時以来の【白秋祭】で、

市民おもてなしに感謝

高校第5回卒 下河秀行さん

その時は高畑公園欄干橋から乗船して川下りし、当時の「かんぼの宿」(現亀の井ホテル)に宿泊して「川下り、水上舞台、最後は花火大会」などを楽しみました。

盛大に『白秋祭式典』举行される

その時も「川下りと花火大会」などが、大変素晴らしかったのですが、今回の【白秋祭水上パレード】は、私の『卒寿』記念として東京から娘や孫を同行して参加して、11月1日午後5時30分から開会式に出席しました。



▲最後は会場の全員で、北原白秋先生の作詞で、帰去来、砂山などを全員で唄いました。

その記念式典直後から、水天宮前の掘割に移動して夜の沖の端から約50隻・約600人乗りの「どんこ舟」に分乗して、川下りならぬ『川の上り船』に乗船して、約4kmの掘割での【白秋祭水上パレード】がスタートし、思う存分楽しませていただきました。

お陰様で夜の【川上り水上パレード】は、昼間の川下りと違って、夜空には名月が輝いており、また各種舞台でイベントが企画されており、非常にファンタジック(幻想的)で、大いに楽しむことが出来ました。川上り沿岸の各地には、いろいろな提灯や柳川市民による趣向を凝らし企画された舞台で囃子、太鼓、吹奏楽、琴演奏、舞踊、吹奏楽コンサートなどが盛り沢山あり『心からのおもてなし』のイベントには、すっかり感動の連続でした。

乗船していた私たちも沿岸の市民の皆様に対し『今晚は』、『ありがとう』、『Thank You!』など叫びながら、おもてなしに感謝の気持ちを伝えて応じました。



▲ようこそ柳川への歓迎提灯

【白秋記念館】、立花邸【お花】 【安東省菴のお墓】などを巡る

さて、今回の【白秋祭水上パレード】参加と共に、名所【白秋記念館】や【お花】などを訪ねることも、柳川旅行の大きな目的でした。

私はいずれも何度も見学していますが、二女や歴史好きな孫たちは初めてで、早くから今回の柳川行きを楽しみにしていました。

翌日は、宿泊した亀の井ホテルを出で、まず訪ねたのが日吉神社、それから白秋記念館、立花邸お花などを訪問して見学して廻りました。

お花では、サプライズがありました。この六月に東京都練馬区で、第24回【歴史と文化講座】～立花宗茂について～の第一部で講師をしていただいた第17代当主立花宗鑑氏とバッタリお会いして驚きました。全く奇遇です。

「今日は、どうしてここにいらっしゃっていますか？」と、お尋ねすると福岡県甘木市で、11月1日(土)【全国藩校サミット】が開催されたとのことであつた。

その後は、旭町の元祖 本吉うなぎ屋で、久しぶりに美味しい「うなぎの蒸籠蒸し」をいただきました。この素晴らしい味は、一生忘れることは出来ません。本吉屋から近くにある柳河藩の儒学者で安東省菴のお墓にお参りした。

安東省菴は、柳河藩祖立花宗茂に見込まれて学問に励み、四代の藩主に仕え、学問と教育の基礎を創る。その信念と実績は柳河藩文教の伝統となり、その家塾は藩学伝習館の基となる。

長崎で、朱舜水(中国の大儒学者)を紹介されて知り合い、以後朱舜水を師として敬い、6年間、収入の半分をさいて師の苦しい亡命生活を扶ける。そのお礼として、孔子像三体

を寄贈したことで知られる。その孔子像は、現在鎌倉の安東家、湯島聖堂と、伝習館高校セミナーハウスに安置されている。安東省菴先生のお墓は浄華寺にある。



▲浄華寺にある安東省菴の墓

省菴先生にお別れして次に向かったのは県立高畑公園で、私にとって幼少時代から大変思い出深い公園で「おにぎえ」「花見」「西日本新聞スケッチ大会」などで何度も行っ

公園です。

高畑公園は、柳川市の中心部にあり、江戸時代後期に創建された三柱神社の社の御還座を祝うために奉納されたことに始まりです。

境内と一体化したような広大な公園です。「三柱」は藩祖・立花宗茂、その岳父・戸次道雪公、道雪の娘にして宗茂の妻・閨千代の三人を祀ったという意味だそうで、いわゆる宗廟にあたる立派な神社です。

その高畑公園では10月、五穀豊穰、天下泰平、家内安全を念願して【おにぎえ】が盛大に終えたばかりでした。

この社の御還座を祝うために奉納されたことに始まります。

その後は、柳川市、西鉄、福岡県と三者共同で進めている大型プロジェクト、西鉄柳川【駅前からの川下り】は、どうなっているのかを調べるために現地に行きました。

予定では、令和7年3月末に開業という触れ込みでしたが、川下りの掘削工事は大きく進んでいましたが、西鉄が計画している【賑わい交流施設】は、全く進んでいませんでした。非常に残念です。



▲グッドデザイン賞の柳川駅舎



▲西鉄柳川駅前からの川下り

この思い切った大型プロジェクト【西鉄柳川駅前からの川下り】が進捗して、全ての工事が完成すれば、「川下り」とともに大型開発が進み、柳川の玄関口の風景や利便性は、飛躍的に様変わりするものと考えられます。工事の早期完成を願うものです。

東京都内で『立花宗茂』の歴史と文化講座を開催

(第二部)

柳川市は8年前の平成29(2017)年6月に『立花宗茂と閨千代 NHK大河ドラマ招致委員会』を立ち上げて積極的に招致活動を行っています。



▲第1部講師の立花宗鑑氏

そのため、地元柳川では度々同招致委員会を開きながら、NHK福岡放送局長やNHK東京本部会長を訪ねて招致活動を続けています。

そのような中、NHK大河ドラマ招致活動の促進に少しでも繋がればとの願いを込めて、東京都練馬区で地域ボランティア活動団体「南田中のまちを考える会」(平成21年設立)は、平成21年から国内の有名講師を招聘して講座を重ねて来ました。

今回は、2025年(令和7年)6月20日(日)、練馬区立「石神井公園ふるさと文化館」多目的室で【立花宗茂について】の講座を平成27年に続いて、

二度目の「歴史と文化講座」を開講しました。

【第24回 歴史と文化講座】

第24回練馬まちづくり【歴史と文化講座】の今回、第一部講師では、公益法人 立花財団理事長で、立花家第17代当主である立花宗鑑氏が『立花宗茂その迷い無き生涯』というテーマで詳しく筑後国の戦国武将『立花宗茂公と閨千代』について講演をされ、大河ドラマ招致活動を行いました。



▲第2部講師の下河秀行

また、第二部では、柳川観光大使(現在、練馬区在住)のわたくし下河秀行が、これまでのNHK大河ドラマ招致活動の始まりから、今日までのその概要を詳しく説明。第24回【歴史と文化講座】は、74名の参加者があり盛会で終了しました。

柳河藩祖立花宗茂は、豊臣秀吉に「西國無双」と言わしめた武勇、義に生きた名将で戦国時代から江戸時

代初期に活躍した初代柳河藩主「立花宗茂」と、女城主であり、宗茂の妻となった「閨千代」。



▲【歴史と文化講座の全景】

そんな二人のNHK大河ドラマを実現するため、立花宗茂公の生誕450年の節目となる2017年から地元柳川市を中心に福岡県やゆかりのある地など公益の官民団体で構成された2つの招致委員会を発足させて、宗茂と閨千代を主人公とするNHK大河ドラマ招致を推進しています。

全国各地からのNHK大河ドラマの招致活動が多い中、継続して招致活動をしていくことが何より重要であると考えています。

趣味のボタニカル写真でカレンダー作り

高校11回生 龍 勝さん



サ
ラリーマンを卒業して
散歩のついでに撮り始
めた写真ファイルがた
まつて、何か生かす方
法はないかと思索して
おりました。見兼ねた
妻が「いい写真を選ん
でカレンダーにしてみ
たら」と助言。なるほ
どその手があつたかと
写真整理もそつちのけ
で挑戦してみることに
しました。素材は余り
ほどあるので、あまり
苦勞することもなくA
4判縦ながの月めくり、
上半分に写真をはめ込
んだ「房総の花々」と
題したカレンダーが出
来上りました。

妻の予想を覆す出来だ
つたようで、「これなら
郷里の親戚に配れば喜ば
れると思うよ」というの
で大乗り気になって印刷
する部数を計算し始めま
した。出来上がつたカレ
ンダーは、サブライズを
期待して事前に連絡せず
に送つたので驚いた様子
でしたが、概ね好評でし
た。以降も現物を見たり
話を聞いたという人たち
から、「おどんでも欲し
から」と希望する人が現
れ、翌年はさらに増刷し
ました。その際、各月の
草花の由来をまとめたも
のを、会報でも紹介させ
ていただきます。

2026 令和8年

The figure displays 16 monthly calendars arranged in a 4x4 grid. Each calendar shows the days of the month in a grid, with the day of the week indicated by the color of the header. The months are arranged in a 4x4 grid: JAN, FEB, MAR, APR in the first row; MAY, JUN, JUL, AUG in the second row; SEP, OCT, NOV, DEC in the third row; and blank spaces in the fourth row. The years are indicated by the color of the month headers: 2019 (red), 2020 (green), 2021 (blue), and 2022 (purple).

表紙

東京丸の内を通り商店街でのフラワーショーのイベント会場で撮ったものです。もんじゃない焼き本場の月島で焼き方を教わりながら、生まれて初めて食べた後筑後川の昇開橋ならぬ勝鬨橋を渡ってまだ移動前にいった築地市場を横目に銀座から丸の内まで歩いた時に偶々遭遇した時のものです。花飾りの材料は切り花か、鉢植えか分かりませんでしたが、バラの生花でした。



2月（雪に埋もれたクリスマスマスの薔）

夜半から降り積もった雪が溶け始めた昼前庭を覗いてみたら白い雪とピンク色のクリスマスローズの薔とのコントラストが鮮やかで少し根元をかき分けて撮りました。

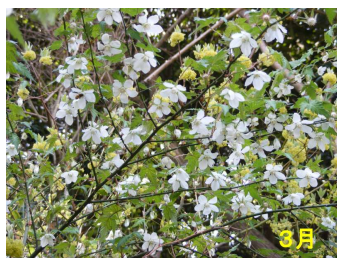


1月（霜の朝のオキザリス）

冷え込んだ朝、窓越しに外を見ると真っ白でした。一瞬雪かと思いましたが霜でした。着替えて庭に出て芝生を踏みしめるとサクツサクツと音がして気持ち良かったです。庭の片隅にキラキラ光るものが見え、近づいてみるとクローバーの様な葉っぱについた霜が朝日にあたって、まるで宝石のようでした。妻にあとで聞いたらオキザリスの仲間の葉だと分かりました。

3月(木イチゴと黒文字)

ちよつと見づらいですが、手前の白い花が木イチゴの仲間です。後ろの黄色い花が黒文字の花です。散歩ルートの里山のはずれで出会いました。黒文字は高級和菓子屋の喫茶室などで和菓子に添えられて出る黒い木肌がついたままの爪楊枝の原材料となる樹木です。君津の山間部では「雨城楊枝」と呼ばれる高級爪楊枝を制作する工房があるそうです。



4月(御衣黄)

御衣黄(ぎよいこう)という八重桜の仲間です。決して綺麗ではありませんが黄緑がかった花の色が特徴で、花名を聴くまでは八重桜に似ているけどなあくらいにしか思っていないませんでした。



5月(エゴの木の花)

樹木名は図鑑やネットなどでは果皮が喉を刺激しえぐくなる「えぐい」が「エゴ」に変化したのだらうと説明しているものが多くありますが、私は味や嗅覚にあまり長けていません。花の色の白いものが多く、写真のようにピンク色は珍しいです。白もピンクも下を向いて咲くので素人カメラマンには撮るのが難しかったです。



6月(半夏生)

写真的には時期が少し早かったようです。もう1週間もすれば白い葉っぱがさらに増えて花が咲いてると勘違いするくらいになります。本物の花も白くて長さが10cm近くになると細長い穂状になります。自然界では低地の湿地帯に繁茂しているそうですが、当地方でも宅地開発などでほとんど見ることが無くなっていました。



7月(フウラン)

野生のフウランは見たことはありませんが、園芸店や専門店などでは根腐れに弱いから1鉢に1本の独特な植え方をしているのを見かけます。前出のエゴの木同様、基本的には白色ですが白い花だと開花期の夕方には表現できないような甘い香りを漂わせてくれますが、ピンクのこの花はそれがなく、妻と二人「天は二物を与えず」というのは本当だね」と笑ったことです。



8月(からすうり)

全く見たことがない人は「えつ、本当」と驚かれると思いますが夏に緑色の実を実らせ、秋に橙色から熟すと赤くなる、まごうことなくカラスウリの花です。と言っても今や都会ではほとんど見かけなくなりました。植物で、まれに見かけたとしても夕方から開き始めて朝方にはしぼんでしまうので気づかないのも無理からぬことだと思います。里山の雑木林の中で見ると神秘的ですよ。カメラのストロボの威力がもう少しあつたらもっと素晴らしい写真になっていたと思います。



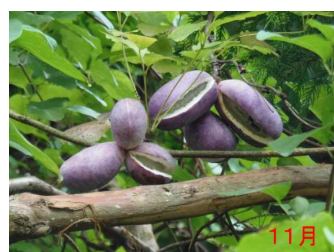
10月(沖縄スズメウリ)

琉球スズメウリとも呼ばれるようです。成長が早くグリーンカーテンにはもってこいのようです。が逆に成長が早すぎるのか、他に欠点があるのか、あまりみかけませんね。夏前にキュウリやゴーヤの花のような小さな黄色の花を咲かせますが熟すと写真のような綺麗な実ができます。大きさは梅の実ほどで私は柳川のひな祭りのさげもんに使われる小さな鞠を思い出します。



11月(アケビの実)

里山の雑木林の中で見つけました。といつても旧柳川市内を始めとした平野地帯出身の会員諸氏の中にはアケビの実物をご存じない方もおられるのではないかと思います。私も現在住んでいる津市へ移住して来るまでは知りませんでした。写真の市へアケビは熟した紫色の外皮と白い果肉と合といい、まさに食べごろのようでした。春先に梅の花よりやや小ぶりですが甘い香りのする黄色がかった花をびっしりと咲かせます。余談ですが山形の友人の話によると山形では外皮も天ぷらにして食するそうです。適度なえぐみがあるとのことでした。



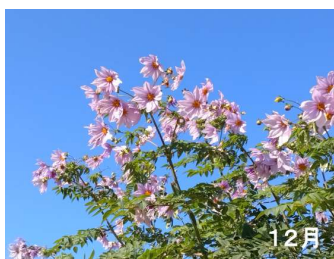
9月(彼岸花)

彼岸花をご存じない方はいないと思いますが赤でも白(クリーム色)でもなく、その中間くらいの色がピンクの花は初めて見ました。翌年も咲いていましたから全くの突然変異ではないと思います。純粋の彼岸花ではなく彼岸花の仲間かもしれませんね。



12月(皇帝ダリア)

昭和の時代に新しい花です。昭和の時代には存在しなかったのに、最近になって花が綺麗で、一時期人気になったことがあり、かき足したのが、最近にはあまり見かけなくなりました。強風対策が大変です。草丈が高くなり、支柱を立てたりは必要です。



『天国と地獄の病室』

高校18回生 福山博彰さん



《緊急入院》

桜が咲き始めた2022年春のこと、どうも胃腸の調子がおかしくなって医者に行き血液検査をして診てもらった結果、突如入院することになってしまった。全くの予期せぬ出来事でした。

「肝臓の数値が異常値です。胆嚢の機能も低下して、お顔も黄色くなってますね…。黄疸です。胆管の機能が悪く胃に胆汁が届いておらず、身体に回っていません。すぐ入院してください」

オウダン?! 何だそれ…聞いたことのある病名ではあるが…? オレが!? うっそ…。今すぐ入院かよ! ありゃりゃ…。ということで、着の身着のままで3月末に入院することになってしまった。

はて、なんでやねん?…コロナのせいで飲み会も激減、家でも晩酌をする程度でそんなには飲んでないし。まあ、今までの数十年の疲れの蓄積が肝臓に負担をかけてしまったのかな…いや、コロナ対策の第4回目モデルナ接種後に身体がおかしくなったから、そのせいかもしれない。

とにかく、最初の1週間は点滴治療(食事なし)、血液検査、腸のエコー検査、レントゲン検査、胃カメラ検査、MRI検査、CT検査、それとコロナ全盛期

であったのでPCR検査…と、検査尽くして過ぎた。この検査を残りの2週間超、退院までに2ラウンド繰り返した。

最初の内は検査続きで緊張もしていたが、その後は点滴の管もはずされ緊張も解けてきた。ま、入院といっても手術はなく、肝機能が回復するまでじっと待つという言わば療養生活で、疲れが取れ元気になり、検査数値が改善するまでは入院していなければならない。寝てるだけ天国だが。

《身体機能》

モノの本によると、70代になると一気に老け込んでしまうリスクがあり、しかも3週間も入院すると身体・運動機能はもちろん、脳機能も一気に衰えてしまうらしい。病院と言う慣れない閉鎖的且つ受動的な環境で不自由な生活を強いられると、認知症のような症状が出始めたりすることもある由。

自分の場合どうか? まず、身体機能。1日7、8千歩を目途に歩いていたのに病院内ではトイレに立つか検査室に呼ばれて行く位しか歩かない。ましてやストレッチ運動などはできないから…せいぜいベッドの上で脚の曲げ伸ばし程度の運動しかできない。腕立て伏せ?! 体力が落

ちているからであろうが、そんな気力は起きない。入院前の体重59.5kgが退院後は53.5kgと6kgも落ちてしまっていた。これはちょうどボクシングのバンタム級の上限体重で、退院後に鏡を見たら下腹の脂肪も消えてお腹の筋肉が4パッド位にキリッとしていた。我ながら半分安心、半分感心した。

“ライザップ只であってももういやだ”

《脳機能》

次に脳機能。入院中は、1日3度の食事・TV・昼寝・読書・週刊誌、それと過去の出来事の回想や空想・妄想で時間を過ごすしかない。TVはちょうどロシアのウクライナ侵攻と選抜高校野球だったが、受動的で他にやることがないから頭がボーッとしている感じ。これでは脳機能に支障をきたし認知症になってしまうと思い、2週間過ぎてから記憶の試験を始めた。まず円周率は…100桁まで言える、よし。ローマ帝国の五賢帝は…う〜んと…よし。ガリレオ衛星はなんだっけ…4つ、よし、大丈夫、覚えてる!…でも違うらしい。認知症ってえのは、昔のことはよく覚えているが、最近・直前のことが思い出せない特徴がある。人とか

物の名前が思い出せない(あれあれ症候群)、自分の事態・行動が思い出せない(何しようとしたんだっけ? 昨日の夜ごはん何だったっけ?)。まあ、そうなんだけどさ、この年になれば、もう開き直りだよ。

《病室内の出来事》

入院の際に個室もあったが、セレブでもないし(1日当り追加料金1万3500円はいかにも高い)、しかもコロナで誰とも面会できないので6人部屋にした。病室から検査とトイレ以外出ることもなく、面会も禁止、ベッドの位置も窓際でないで外も空も見えず、白いカーテンと天井しか見えない隔離された空間だった。でも孤独には強いのでホームシックにはならなかった。病室は他の5人がいわゆる寝たきりでベッドから離れて立って歩けない70代、80代の老人。だから5人ともオムツパンツを履いている。内3人は耳の遠い寝たきりのほぼ痴呆老人で、もう入院2、3か月の人もいるようだ。彼らの言葉は半分ワケが分からないし、何を言っているのかも聞き取れない。夜中になるとわめくボケ爺さんもいたし、隣の部屋から朗詠が聞こえる婆さんもいて、最初の内はよく眠れなかった。

精神的にも落ち着いてきたら、周りが見えてきた。日中の食事時、3、4人が看護師さんに時間をかけて食べさせてもらう。そして、オムツ替えて騒ぐ。まるで

赤ちゃんだよ。圧巻は毎夜10時消灯前の20~30分の総オムツ換え作業。看護師さんと介護士さんかお世話係のオバチャンが5人のオムツを順番に換えていく。カーテンで仕切られているから見えないが、恥ずかしいから嫌なのか毎回バタバタ・ワサワサ・ワイワイと声をあげての大騒ぎ! 想像するだけで笑っちゃう。看護師さん達も大変だよ。病室が半分介護施設化している。頼むからああいふ老人にはなりたくない…。

《毎週の回診》

1週間に1度回診というのがあり、担当医の先生が病室に病状を見たり聞いたりしに来る。TVなどで病院長以下がぞろぞろと病院内を列になって並んで歩いている様子が面白おかしく描写されているが、あれの小規模なモノがこの病院でもあった。驚いたのは病室での患者とのやり取りである。カーテン仕切りの6人部屋だから一人一人全部筒抜けに聞こえてくるのだ。

「…う〜んと、この手術はウチではできないから、大きい病院に行ってもらわなければならないね。そうだねえ、手術といつても…もう膝から下を切るしかないですね」

ええっ、そんな病や処置方針の重要な情報を他人に聞こえるところで言っているの?! 病人の顔は見えないが、恐らくは地獄の宣告で絶望に真っ青であろう。聞

こえている方も苦しい。

その他にも、入院時に携帯電話をタクシーに忘れてきたとかで、病院からケイタイを借りて半日かけてあちこちに掛けまくり、翌日やっと手元に戻した大奮闘のおじさんとか、色々ありました。

そんなこんなで天国みたいな地獄みたいな25日間が過ぎ、胃腸の調子も良くなり全快しました。3月末から4月下旬までの想定外の入院⇒天の警告として前向きに捉えるしかない⇒これから健康管理強化に注力します。退院で外に出たら冬の終わりが春が変わっていた。

“病床でロックダウンの春が過ぎ”



柳川で音楽めぐり

高校42回生 弥永邦夫さん

四十を過ぎた頃から、実家の用事で柳川に帰ることが増えた。若い頃は、帰省といえば親の顔を見て、うなぎでも食べて、さっさと戻るだけだった。しかし、この歳になって夜の柳川が思いのほか面白い。酒場があって音楽があって人がいる、そんな世界があることを知った。そんな私が帰省したときに入り浸っている所を紹介させていただきたい。

「ファンクール」 ～多くのファンに愛されたジャズの老舗～

1969年に城島繁実さん（14回生？留年されたので多分）が始めたジャズの店。初めて行ったのは大学1年の夏。同級生と居酒屋「古賀ちゃん」で飲んだ後、二次会でふらっと立ち寄った。いつも階段を上がって2階のドアを開けると「帰ってきとったね」と、マスターがにっこり笑って迎えてくれた。その笑顔が、柳川に帰ってきた実感をくれた。マスターは2019年、店の50周年の年に亡くなった。今は奥さんの邦子さんが店を守っている。昔も今も変わらない空気だ。

城島マスター(2015年1月)



「グルーヴィー」 ～ヨーロッパ田舎町の気分で旅人が交流～

椿原町の「さいふや(宰府屋)旅館」の一階にあるジャズの店。旅館は昭和初期の建物で、映画『柳川堀割物語』の撮影時には高畑勲さんら撮影クルーがここに滞在していた。

夕方になると、地元の常連が集まってくる。旅人も交じって、音楽を聴きながら将棋を指したり、酒を飲んだり。時間の流れがなんだか日本じゃないような、ヨーロッパの田舎町にいるような気分になる。私もへぼ将棋の相手をしてもらったりしている。マスターは内山耕蔵さん（18回生）。沖端の「やながわ有明海水族館」も運営している。ジャズと水族館。柳川らしい組み合わせだ。



「北原白秋生家・記念館」 ～九大コーラアカデミーの白秋CD発見～

柳川といえば白秋さん。前に白秋さんについて会報に書かせていただいた際には、館長の高田杏子さんに大変お世話になった。

童謡や校歌の詞を数多く残した白秋生家の記念館には、音楽にまつわる資料が豊富にある。その中に、自分が学生時代に所属していた合唱団のCDを見つけた。あの頃の声が、ここに展示されているかと思うと、少し照れくさく、でも嬉しかった。一階のロビーでは、ミニコンサートも開かれる。



「柳川市民文化会館」(水都やながわ) ～館長は伝習館同級生～

2020年にできた新しい文化会館。今年の3月、同窓生でソプラノ歌手の、金見美佳さんのリサイタルコンサートがあり、ちょうど帰省していたので、聴きに行った。

館長は同級生（42回生）の井上友睦君。帰省すると飲みながら、柳川での音楽イベントについて語り合っている。

こんなふうに、この歳になっても帰省のたびに覚えてくる柳川の顔がある。皆さんも帰省の際には是非訪れてみてはいかがでしょうか

この真ん中が井上君です。

人生は、偶然が意味を持って繋がったもの？

高校45回生 中島淑雄さん

今回、私の故郷への想い、祖父や父への記憶、そして今の仕事について書きます。

つらつらと書いていくうちに、これまでの人生で想い続けてきたこと・経験してきたことが、意味を持って繋がっていくことを感じました。

1998年に社会人になってからの最初の約4年間は、名古屋・東京・大阪で勤務し、2002年からずっと東京で勤務しています。その間、毎年ほぼ欠かさず、地元の太木町へ帰省しています。平均すると年に2回ほど、独身時代も、そして結婚して家庭ができてからはほぼ必ず、妻と子供たちを連れてお盆と年末に帰省しており、子供たちも太木町が故郷だと思ってきています。

これだけ帰省している人も珍しいと思います（笑）、私にとって太木町や柳川、大川などの地元の風景はずっと心に沁みついており、これほど心が安らぐ場所はありません。子供たちや甥っ子・姪っ子と一緒に、家の周辺で虫取りや鮎釣りをしたり、キャンプや旅行に行ったり、三井グリーンランド（昔のアトラクションがたくさん残っている！）などに連れていったりすることが、なんと楽しいことか。自分の人生でいちばん楽しい瞬間はいつか？と問うと、家族での帰省に他なりません。

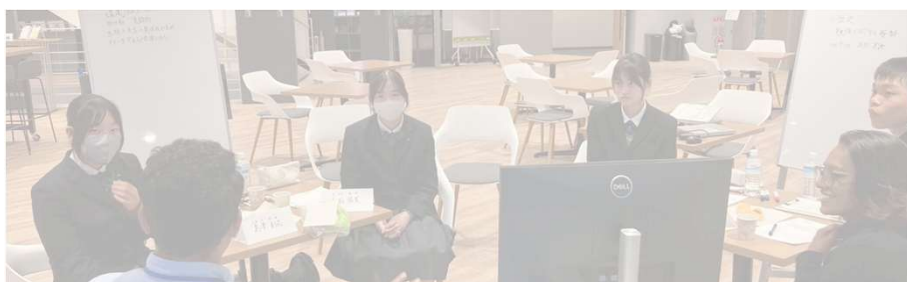
そして、母校の伝習館周辺を始めとした柳川市も、大切な原風景です。一人で、あるいは子供たちを連れて、御花から伝習館まで白秋道路を歩いたりしました。有明海の干潟を見に行ったり、立花うどん（これは毎回欠かしません、そして必ず肉ごぼう天うどん）に行ったり。このような故郷を持っていることは、とても幸せなことだと心から感謝しています。



教師だった祖父・時夫や父と同じ道へ

さて、私は今、社会人の教育に携わっています。経営大学院学院にて、主に企業の人材育成に従事しています。今の仕事に就いたのは2010年。それまでは電機メーカー、IT/ソフトウェアプロバイダー、投資会社（経営コンサルティング）でのキャリアを積んでいますが、今の仕事は天職だと思っています。

なぜ、教育や人材育成を天職だと思えるのか。それは、「一人ひとりが、自分の持つ可能性を広げることに貢献したい」という私自身の価値観に加えて、教師であった私の祖父や父にも関係します。私の祖父は伝習館で長らく体育の教師を務め、バレーボール部の監督としても有名だったようです。伝習館のバレーの試合がテレビ中継されたシーンも何となく覚えています。生徒には相当厳しかったようで「おやじさん」と呼ばれていたようです。子供のころから、行く先々で「中島先生のお孫さんね」と何度言われたことか。父は家庭のことはほぼ顧みる暇がない感



でしたが（笑）、週末になると自転車に栽培した野菜を積んで、配って回っていた姿を覚えています。そういえば、自宅の前の田んぼをつぶして、子供たちが遊べる巨大な広場を作ってくれました。小学校の頃は、そこで毎日毎日、野球やドッジボール、警察泥棒（通称警ドロ）をして遊んでいました。今でも、幼馴染に会うと、とても楽しかった思い出として残っているようです。祖父に感謝です。

そして、私の父親は当時大川高校で数学の教師をしており、バドミントンの国体選手になるほどだったようです。ただし国体出場の1ヶ月ほど前、私が3歳のときに交通事故で他界しました。国体の入場行進で、友人の方が父の遺影を持って行進していた写真を何となく覚えています。大川市では「中島杯」というバドミントンの大会が毎年開催されていますが、他界した父を記念してできたそうです。幼少時に会場に遊びに行ったときに聞いた選手のステップ音やシャトルを打つ音、体育館の臭い、母親が表彰状を渡していた光景も記憶にあります。鮮明に残っている父親との記憶は少ないですが、今でも続く中島杯、そして父親のことを知る元生徒の方や友人、親戚の方々から聞いてきた話によって、心の中の存在として消えることはありません。

そのような経験から、子供の頃から、祖父や父親が多くの人の記憶に残っていること、そして時にはその方々の人生に影響を与えてきたことに触れ、教育の特別さ・尊さみたいなものを感じていました。社会人になってからは、教育者になる道を選びませんでしたが、毎年地元へ帰省する度に、大人になってもずっと祖父や父の存在、教育の特別さを感じ続けていました。その思いが何らかの偶然としてキャリアに結実し、今、教育に関わる仕事に就いています。今の仕事内容が天職だと思える大きな理由の一つです。

偶然とは思えない「必然の偶然」を感じる

心理学者のユングが提唱した概念に「シンクロニシティ」というものがあります。「意味のある偶然の一致」「必然の偶然」を指し、物理的な因果関係がないにもかかわらず、偶然とは思えない形で、関連性や意味を持っているように感じられる出来事、と解釈できます。これは、深い部分で意識がつながっていることや、集合的無意識からのメッセージ、「アンテナ」が高くなること等が原因のようです。そうすると、今、私が教育の仕事についているのも、ずっと無意識的なものも含めて想い続けてきたことが現実として繋がった、まさにシンクロニシティの一環なのではないかと思っています。



先日、伝習館の生徒数名が、東京への修学旅行におけるOB職場訪問の一環で、私の職場に来てくれました。簡単な授業をやったり、未来について語り合ったりするなど、とても楽しい時間を過ごしました。私の祖父が数十年前にやっていたことを、今、私がやっていることに、不思議さ以上に、運命的なものを感じました。これもシンクロニシティなのかもしれません。そして、その発現には、私の故郷への愛着も影響しているように感じます。この先も、どのような出来事が待ち受けているか、楽しみです。





同窓生だより

高校45回生西田真紀子さん

就職のため上京して早 25 年が経ち、人生の半分以上を故郷から遠く離れた街で過ごしている私ですが普段の何気ない会話の中で故郷の自慢をすることがあります。

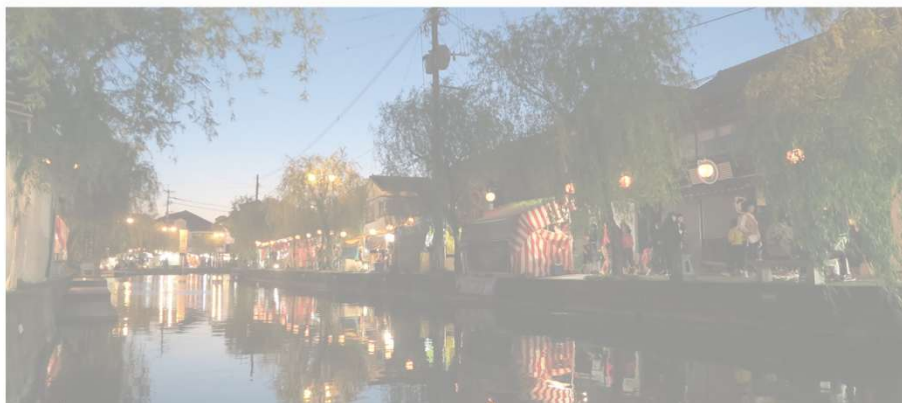
なまこ壁を背にして垂れ下がる柳とお堀の城下町の風景春には色鮮やかなさげもん祭り。地元愛が強い私は毎年ひな祭りには雛人形と共に、さげもんを飾っています。ですが何より誇らしいのが、おもてなし精神が旺盛な人柄だと思います。思い出す度に心がとても温かくなります。人を受け入れ相手を思い、フランクに話しかけ場を和ます心の温かさ。そんな故郷にあり歴史のある藩校から引き継がれてきた伝習館を母校に持てたことは誇りです。高校 3 年時に県立移管100周年・創立 170周年を迎え 45 回生の役回りの今年にメモリアルとなる創立 200 周年とは感慨深いものですね。

高校時代の思い出は、課外授業の為の早起きと遅くまでの部活動で、睡魔に襲われ予習できず先生に指されることにビクビクしていた日々(笑)。特訓し団結して盛り上がった体育祭。吹奏楽部での地道な練習とおしゃべり。私の思い出の全ては仲間と共にあります。

子供も成人し、週末はジムでダンスをして仕事のストレスを発散。また、友人や主人と美味しいものを食べ充実した日々を送っています。時代は変わり変化に対応していくことも必須ですが、同時に大切なのは時代を越え場所を変えても伝統を守り、心だけは変わらずにいることだと思います。



※令和 5 年度伝習館高校大同窓会議案書の寄稿を再掲しました。
写真とともに、東京同窓会会報に掲載する許可を頂きました。



未来を語る高校生のために

高校41回生 下河敏彦さん

飲み会&カラオケ 東京支部!! アツイ中身

2025年8月に、高校37～45回生のメンバーが集まって、11月の修学旅行の企業訪問に関する話し合い（飲み会）を行いました。私の会社は訪問対象ではないのですが、まだ自分の持ち場も役割も、夢の形も定まっていない高校生をサポートしようと立ち上がってくれたメンバーとなら、きっと楽しいし、その記録を会報に残したいという思いもあって参加しました。思ったとおり、例年より暑い日に、熱い思いがあふれ、友情を厚くできる（この表現を使うの2回目）メンバーでした。

夜はカラオケで盛り上がり。選曲に世代が出るわ出るわ。それは、しょんなかですね（私の選曲がロマンチックと言われましたが、父（4回生）は演歌、母は童謡、兄（39回生）はオフコースしか聞かん家庭環境のせいです）。

少し? “無理して” 今どきの曲の話をすると、連続テレビ小説「あんぱん」の主題歌「賜物」をうたっていたRADWIMPSの「正解」という曲が卒業式の定番となっているそうです。その歌詞には「あの頃の僕には答えなんてなかった。でも、答えがないからこそ、進める道があった。」というフレーズがあります。

自分の高校時代を振り返ると、答えを求めるほどしっかりした自分なんかおらんかった、でも、「賜物」の歌詞にでてくる「参考文献」が、こういった出会いのなかで見つけられたら、お互いにとっていいなあと思うし宝物になると思います。

11月5日に行われた企業訪問は、上記のメンバーがすごく頑張ってくれました。その「答え」は、古賀貴統さんの記事にあるみんなの表情がすべてじゃないですかね。



四月

テラギ

平貝の獲れんゴツナリ老舗閉づ

有明海で平貝が全く獲れなくなり、平貝の「貝柱の粕漬」が主商品の海産物店「水産堂」が長年の歴史を閉じた。子供の頃から、ご馳走の郷土料理だった。残念！

出逢橋一羽の蝶と渡りけり

御花の南の堀に架かる木造の優美・閑雅・幽玄な橋。人がすれ違うのがやつと。下を、どんこ舟が上り下る。



・出逢橋春着の姫の渡りけり
・深の花を採しあぐねし出逢橋
・龜位くや出逢橋下水清し
・出逢橋つんとすまし夏帽子
・七夕の短冊舞ふや出逢橋



三月

閑かさや殿のお倉の昼ねずみ

左記・白秋詩「殿の倉」より

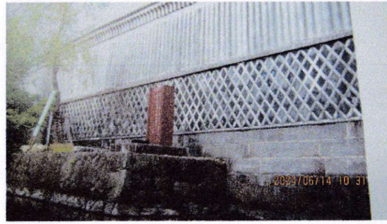
昼ねずみ＝陽炎のこと

しづかさは殿のお倉の昼鼠

ちよろりとほり

またも消ぬかに

白秋



殿の倉は藩侯立花家の別邸「御花」の倉。
現在は立花家資料館としてゆかりの品々を
展示している。

赤い石碑は北原白秋の詩碑

「我つひに還り来にけり倉下や

揺るる水照の影はありつと」

九月

かまきり きよそふうぼう

蟬螂の挙措風貌の友博士



カマキリに出逢うと「おー元気か！」と声が出る。T君を想う。

彼は瘦身長軀、昂然と姿勢を正し、哲学者然。カマキリを連想する秀才だった。

伝習館から京都大学へ進学し、在学中一銭も授業料を払わず卒業した。無銭飲食ならぬ無銭修学である。（全部奨学金）

企業人となるや年商数千億の市場を開発した。皆さんご存知のインスタントカレーに代表されるレトルトパウチである。

工学博士。七カ国語に通曉。自ら「日本のエンサイクロペディア」と豪語した。

惜しくも七〇歳で早世したが、今頃、仙界を牛耳っていることだろう。

・柳川弁でカマキリの事を「オガマニヤトオサン（拝まにや通さん）」という。

・ちなみに斜庵の少年時代のニックネームは「飢饉年のカマキリ」だった。

八月

故郷や高麗鳥よあの友よ

コウゲガラス

コウゲガラス

＝高麗鳥・鵲



クツゾコの煮物あげもの母の味

クツゾコ＝舌鰾

・「白飯クツゾコ」は柳川で 美食のたとえ



句集「柳川んボレ」(時々柳川弁)より

高2 斜庵 小野善睦

末永通子作品展

古布のタペストリーと

小物展

末永通子（昭和45年・高21伝習館卒業）
福岡県久留米市在住です。

大分市の角永睦子先生に師事し

古い着物・布に魅せられて二十有余年。

丹精を込めて作りあげてきた

タペストリーと小物たち。

この度、不思議なご縁で

東京中野のギャラリー楽にて

（高18伝習館卒業古賀るり子さん経営）

展示会を開催する運びとなりました。

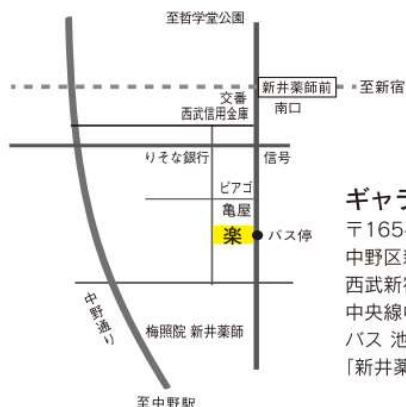
皆様にご覧頂ければ大変うれしいです。

販売もいたします。

開催日

令和8年（2026年）
5月19日（火）～24日（日）
11時～19時
（最終日は16時）

会場



ギャラリー楽

〒165-0026
中野区新井 5-25-5
西武新宿線新井薬師前駅南口1分
中央線中野駅北口徒歩15分
バス 池袋行きまたは江古田行き
「新井薬師前駅」バス停の前

賛助金の振り込み方法

① 同封の郵便振替用紙で送る

② 銀行振込みで送る場合

三井住友銀行(銀行コード0009) 鶴見支店(店番号572)

普通預金 口座番号7329411 口座名=伝習館東京同窓会

いずれの振り込みの場合にも〇回生、または卒業年度をお書きください。通信欄には近況、会報へのコメントもどうぞ。

◆賛助金について

伝習館東京同窓会は会費制を取らず、会員の皆様の篤志である賛助金により成り立っています。東京同窓会に集まる賛助金は会員への通信、会報の発行、ウェブサイト代、総会・親睦会・交流会等の補助などの経費に使用されており、皆様から頂く賛助金が東京同窓会の運営を支えています。1口2,000円から何口でも結構です。(半口1,000円でも受け付けています)。同封の郵便振替用紙にて送付いただき、(ない場合は銀行振込みへ)、ご協力よろしくお願い申し上げます。

◆会報応募要項

- ・伝習館卒業生ならだれでもOKです。ウェブ版にも対応しています。
- ・テーマは取り立ててありません。(同窓会に相応しいもの、審査あり。編集委で選びます) 字数制限なしだが常識的範囲で(ワード原稿をメールで送付してください)。
- 随筆、詩、俳句等のほか、写真・絵・カットの添付も可。

※原則10月20日締め切り

北島 正常 行き

伝習館高校 東京同窓会

Eメール=anc54684@nifty.com

携帯 090・5532・0323 もしくは denshukan.tokyo@gmail.com

下河敏彦

shimogawa58@gmail.com

編集後記

前の回より限定会員に冊子版の東京同窓会会報をお届けしております。会報のウェブ版を前号から始めましたが、紙媒体を愛読していただいた方からの冊子版要望も多く(主に年配者)、会報を必要とされる方を中心に用意しました。今回も編集委の手作りで進め、何とか形に出来ました。ご一読いただければ幸いです。(北島)

会報も掲載されるウェブサイトは以下のとおりです。

伝習館高校東京同窓会 <https://denshukan-tokyodearfriend.org/>

編集委員は以下のとおりです。

北島 正常(編集長、高21)

西原 正道(高21)

山田 公德(高33)

下河 敏彦(高41、副編集長)

弥永 邦夫(高42)

東京同窓会会長 白谷政則(高21)

副会長 一木亮之介(高32)

山田 公德(高33)

眞鍋 和裕(高34)

志牟田美佐(高37)

事務局は以下のとおり

〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ケ谷 1-9-1

白谷方

伝習館東京同窓会事務局

☎045・581・8193(兼ファクス)



Topics

同窓会総会in柳川開かる

9月28日、第75回伝習館同窓会総会が御花の対月館で行われました。元村快枝実行委員長ら47回生が今回の担当で、引き継ぎ後一年をかけて精力的に取り組みました。当初、記念講演者に鳥取三津子氏（高34回、日本航空社長）が予定され注目されていたが諸般の事情により、急遽、井上淳郎伝習館高館長が講演に立ち、県南の拠点校として伝習館の将来像を語りました。総会後の親睦会では白谷会長も登壇し、東京同窓会の現況と新たに副会長に就任した山田公德、真鍋和裕の両名を紹介しました。その後、伝習館吹奏楽部が迫力のサウンドを展開。応援団による演舞も続き、会場を盛り上げました。



綿貫直諒 油絵展

イタリア在住の画家、綿貫直諒(わたぬき なおよし)画伯が11月初旬、銀座松屋で個展を開催しました。綿貫画伯は三橋町生まれで、伝習館(高14回)を経て、東京芸大油画科を卒業。41年前に夫人とともにイタリアに渡り、ローマ郊外で制作を続けています。また同窓会会報創刊号の表紙にも協力いただいております。今回、イタリアの街、風景を描いた絵が展示され、多くの伝習館卒業生が、作品に見入っていました。



東京同窓会ゴルフ同好会の報告

第13回 東京同窓会コンペ 令和7年9月10日
川越カントリークラブ中→西コース 参加者12名
優勝＝甲斐田幸輝(高32回)

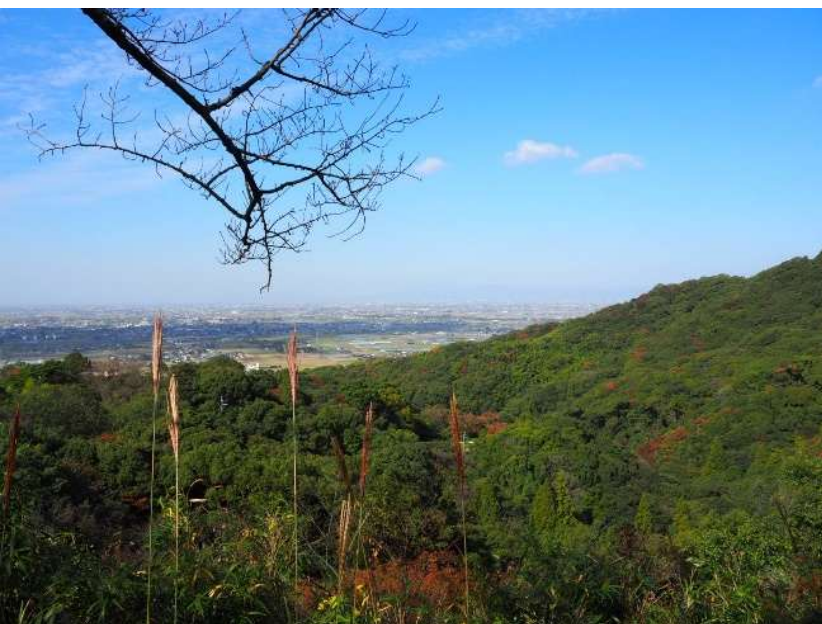
甲斐田幸輝さんがスコア94(50・44)で優勝。
「天気にも恵まれ、ダブルペリアに上手に当たり、たくさんハンデももらって優勝できました」ということで、前回Vの同級生・大山恵さんより、優勝トロフィーを受け取りました。ベスグロは富重由佳さんで89(45・44)の高スコアもメンバー1のハンデキャップに泣きました。





夜明けの出船

沖端川の河口付近



清水山から望む、
みやま、柳川市街

(高 2 1 田中正司撮影)



伝習館高校 東京同窓会
<https://denshukan-tokyodearfriend.org/>

伝習館高校 東京同窓会事務局
 〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷1-9-1 白谷方
 TEL 045(581)8193 FAX兼用